インパクト
コンソーシアム

インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会

2024事務年度　報告書

目次

インパクト
コンソーシアム

1．はじめに
⑴ 地域・実践分科会の目的と背景
⑵ 分科会が設定した問い
⑶ 実施した活動の概要
⑷ 本報告書概要

2．地域企業から見た地域の課題と、それに対応する取組
⑴ スタートアップ企業の事例より
⑵ 老舗企業・中核企業の事例より
⑶ ローカル・ゼブラ企業の事例より
⑷ まとめ

3．地域の資金の出し手から見た課題と、それに対応する取組
⑴ 地域金融機関の事例
⑵ 地域VC・ファンドの事例
⑶ まとめ

4．分科会から得られた示唆
～地域企業による社会・環境課題解決促進のために～

5．おわりに
座長・副座長・ディスカッションメンバーからのメッセージ

Appendix
① 地域における取組事例集
② 地域インパクトの創出に活用できる支援施策等

1．はじめに　(1) 地域・実践分科会の目的と背景

インパクト
コンソーシアム

課題意識・目的

■　背景

地域に**潜在的に存在する社会・環境的又は人的資源**を活用し、地域発で**社会・環境課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現**することへの期待は高く、実際に、足許で多様な地域企業によるインパクトの創出例が見られつつある。

■　課題

一方、**地域発の取組**には**様々な経営・資本戦略等のノウハウの不足がネックとなる**等、取組の**実践は決して容易でない**。

■　目的

「地域・実践分科会」では、まずは多様な取組の浸透・拡大を図るよう、**社会・環境課題の解決の視点を取り入れた地域の価値創造等の取組可能性が多岐にわたる点が理解し易い、関心喚起型の議論・発信**を行い、機運醸成やネットワーク構築の支援、それらを通じた地域への人材・資金の流れを強化といった**好循環の地域での実現**を目指していくこととし、以下の活動を実施した。

活動内容・主な論点

■　活動内容

「地域における事業者」および「金融」の目線から、**オンライン形式でのケーススタディ**や、**地域を訪問するフィールドワーク**において、座長・副座長・ディスカッションメンバー・ゲストスピーカー等が闊達なディスカッションを行った。

➢　**視点１　地域における事業者の目線**

①　**インパクトスタートアップやゼブラ企業**が捉える地域課題、**事業成長とインパクト拡大のための資金・人材面等の課題**等

②　**インパクトとの関連性が見えにくい地域の老舗企業や中核企業**が捉える課題と、事業を通して取り組む意義等

➢　**視点２　金融の目線**

①　**地域VCや地域金融機関**等が、**地域発のインパクト創出を支援する際の工夫や課題**

②　**地域外のVC・投資家や大手企業**と地域内のステークホルダーによる**連携の意義や留意点**等

1．はじめに　(2) 分科会が設定した問い

インパクト
コンソーシアム

分科会としての問い

■ 各地で取り組まれている様々な事例は、地域性・分野・業種・実施主体・取組内容等が多様であることから、**当分科会として向き合いたい「問い」**を設定し、各回の活動において一貫してこの**「問い」の答えを模索**すると共に、**関心喚起**と、**実践の一歩を踏み出す際の参考となる情報**を提供することとした。

1　Why?　なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

▸ 社会・環境的課題の解決という効果（インパクト）を意図した経済活動が、地域企業等の事業基盤である地域の経済成長・持続可能性にどう貢献するかを考えることで、インパクトを意図した事業や取組に踏み込み切れていない参加者が腑に落ちる議論を提供。

2　What? How?　地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

▸ インパクトの創出と収益性のバランスに関する課題例や、経営戦略にインパクトを織り込むことで成長の機会に結び付けた事例（人材獲得・企業価値の向上・顧客基盤や関係者との連携の構築等）を基に整理していく。

本報告書について

■ 多様な地域発のインパクトについて、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じ、**地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**等に関して、共通する様々な視座等を得たことから、**「地域における事業者」「金融」双方の目線から整理**し、本報告書をとりまとめた。各地において豊富で様々に存在する独自の資源を活用し、インパクト創出に取り組む地域企業や資金の出し手にとって、参考となるものになれば幸いである。

1．はじめに　(3) 実施した活動の概要

インパクトコンソーシアム

会議の種類

1 分科会・フィールドワーク
メンバーが関係者からの事例紹介等で理解を深め、**現状や課題と方向性の共有**をする会。事後アンケート等を通して意見や知見を発信。

2 ディスカッションメンバー会（DM会）
ディスカッションメンバーが現状や課題を深掘し、**あるべき方向性の議論**をする会。

7月　10月　11月　12月　2月　3月　4-6月

1 分科会・フィールドワーク

第１回（7/30 2.5h）
- 地域社会の課題とインパクト
- 事例紹介/意見交換
  - ✓ amu ㈱
  - ✓ ㈱ komham
  - ✓ ㈱ 電脳交通

第2回（10/17 2h）
- 地域・実践分科会を通しての「問い」
- 地域課題解決に取り組むゼブラ企業
- 事例紹介/意見交換
  - ✓ 千年建設 ㈱
  - ✓ ㈱ CNC
  - ✓ ㈱ 島田木材

第3回（11/22 1.5h）
- 投資から融資、コンサルティング。地域の資源を地域の資源を活かした地域金融機関の新しい価値
  - ✓ ㈱ 肥後銀行
  - ✓ 八十二インベストメント ㈱
- 地域のスタートアップエコシステムとインパクトのバトン
  - ✓ ㈱ うむさんラボ
  - ✓ (一財) 日本民間公益活動連携機構

フィールドワーク ～丹後編～（12/5~6）
- 企業ヒアリング
  - ✓ 京都北都信用金庫
  - ✓ ㈱ ローカルフラッグ
  - ✓ クスカ ㈱
  - ✓ ㈱ ウエダ本社

第4回（2/27 2h）
- インパクト創出に向けた人材交流の実践
  - ✓ UntroD Capital Japan ㈱
  - ✓ 池田泉州キャピタル ㈱
  - ✓ ㈱ QPS研究所
  - ✓ ベータ・ベンチャーキャピタル ㈱
- 既存イニシアティブとの連携と先進事例の理解深化
  - ✓ インパクト志向金融宣言 地域金融分科会
  - ✓ 北九州市

フィールドワーク ～会津若松・仙台編～（3/13~14）
- 企業ヒアリング
  - ✓ AiCTコンソーシアム（会津若松市、アクセンチュア ㈱、TIS ㈱）
  - ✓ ㈱ 東邦銀行
  - ✓ 公立大学法人会津大学
  - ✓ 国立大学法人東北大学
  - ✓ シスルナテクノロジーズ ㈱
  - ✓ ナノテラス視察
  - ✓ ㈱ 日本政策投資銀行 東北支店
  - ✓ 仙台市
  - ✓ スパークル ㈱
  - ✓ ㈱ 七十七銀行

2 ディスカッションメンバー会

第1回（10/8）
- 分科会のゴールの確認
- 「問い」の設定
- 成果物について
- 全体スケジュールの確認
- フィールドワークについて
- 意見交換

第2回（2/21・25）
- 分科会の振り返り
- 今後の予定
- 成果物について
- 意見交換

成果物（活動報告書）のレビュー・完成

1．はじめに　(4) 本報告書概要

インパクト
コンソーシアム

Why

▶ なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

事業トラック

第1回分科会

- 地域における最大の課題は「地域が存続できないかもしれないこと」。地域固有の課題をステークホルダーからの理解を得ながら解決していくことが必要
- 経済的な価値に直結しない自然資本、地方が有する**多様な価値の再評価・再発見**が必要
- 地域社会への貢献は**企業価値向上・優秀な人材の確保やモチベーション創出**につながる

第2回分科会

金融トラック

第3回分科会

- 地域金融機関にとって地域経済の健全性・持続可能性は**自らの経営基盤と密接不可分**
- 地域におけるインパクトは、**地域社会の質的豊かさの向上**につながる
- 社会課題は複雑であるため、**インパクトを切り口に**「点」でなく**「線」「面」の視点で構造的にとらえ**、各関係者が連携を強化することが重要

第4回分科会

議論を通じて、地域でインパクトを意識する必要性の共通認識を醸成

What/Howと課題

▶ 地域課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、何をどのようにすればいいか

事業トラック

- 地域内外の多様な主体との連携強化
- 柔軟な資金調達手法の活用
- 人材の確保のための育成・呼び込みの仕組み作り

課題

- 地域の中でネットワーク同士をつないでくれる**触媒機能の存在**がより重要
- 社会課題の解決を目指す企業を支援する**金融機関の行動変容**が求められる

金融トラック

- 従来型の融資に留まらない多角的なアプローチ
- 産学官金連携による新規産業の創出と人と知恵の循環するエコシステムの形成

課題

- **インパクト志向**でエクイティ活用を含む多用なソリューション提供を実務レベルで検討できる**金融機関人材が不足**
- 地域金融機関においてインパクト創出への取り組みにばらつきがあり、**インパクトに着目するインセンティブ**が十分に形成されていない

事例を通じて示唆を得られたが、具体的実践には依然として課題

来年度のテーマ

▶ インパクトを実現するための課題

- 地域における資金の出し手が**採りうる手段(How)の深堀り**
- 地域における資金の出し手が**インパクト創出に取り組むインセンティブを形成**することにつながる議論

2．地域企業から見た地域の課題と、それに対応する取組

インパクト
コンソーシアム

(1) 問いに対する気付き・視座　～スタートアップ企業の事例より～

1　Why?　なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

- **ニーズの深い理解:** 地域によって状況や現状が異なるため、地域社会のニーズを深く理解し、地域固有の課題を解決するための革新的なソリューションを提供することで事業成長と地域経済への貢献が可能となる。
- **地域との共生による事業成長:** 地域社会との協力や連携を通じて、ステークホルダーからの理解を得ることで、より円滑な事業運営が可能になる。

2　What? How?　地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

- **多様な価値の創造**: 自社の製品・サービスを通じた革新的なソリューションの提供。また、雇用や調達を通じた地域住民の生活の質の向上、環境保全、文化の継承など、多様な価値を創造することを目指す。
- **地域内外の連携と共創**: 地域内の企業、自治体、住民などとの連携はもちろん、必要に応じて都市部の企業や専門家とも協力し、知識や資源を共有しながら事業を進める 。
- **柔軟な資金調達**: インパクト投資など、企業の社会的価値を評価する新しい資金調達の方法も検討し、事業の成長段階や特性に合わせて資金を確保する 。
- **人材の確保と育成**: 特にインパクト志向の経営ができるプロフェッショナルや専門職などの獲得。都市部から人材を呼び込む仕組みや、多様な働き方を支援する環境づくりも重要となる。
- **情報発信とコミュニケーション**: もともと持っていた社会的ミッションをインパクト評価を行うことで言語化できた、という指摘もあった。事業の目的や価値を分かりやすく伝え、投資家等関係者からの理解と共感を得ることが求められる。

2．地域企業から見た地域の課題と、それに対応する取組

インパクトコンソーシアム

⑵ 問いに対する気付き・視座　～老舗企業・中核企業編の事例より～

1 Why? なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

- **地域経済の基盤強化**：インパクト志向の事業を通じて新たな雇用や産業を生み出すと同時に、地域の生活基盤の整備や多様な資本が強化されることで自社のビジネスの前提となる地域経済の基盤を強化できる。
- **企業価値の向上**：老舗企業や中核企業がインパクトに取り組むことで、投資家や消費者からの評価が高まり、企業価値の向上につながる可能性がある。
- **人材の確保と育成**：地域社会への貢献は、従業員のモチベーション向上や、優秀な人材の確保に繋がる。特に、若い世代にとって魅力的な働きがいを提供することができる。

2 What? How? 地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

- **長期的な視点での地域貢献**: 世代を超えて地域社会の持続可能性に貢献する事業を構想する。
- **地域資源の再評価と活用**: 地域に根ざした活用されていない資源や産業を見直し、新たな価値を見出す。
- **地域内の連携強化**: 地域内の多様な主体（他の企業、自治体、教育機関、NPOなど）との連携を深め、地域課題を俯瞰的に捉え、地域全体の課題解決への貢献を意識する。
- **従業員の働きがいと地域への誇りの醸成**: 従業員が地域社会に貢献しているという実感を持てるような事業を展開し、働きがいを高める。また、従業員が地域の一員としての誇りを持てるような取組みを行う。
- **地域社会との対話と共創**: 関係者との対話を重視し、地域住民を巻き込んだ事業展開や、共同プロジェクトなども検討する。地域貢献は「ずっとやってきた当たり前のこと」とせずに、改めて言語化し関係者に発信する。

2．地域企業から見た地域の課題と、それに対応する取組

インパクト
コンソーシアム

⑶ 問いに対する気付き・視座　～ゼブラ企業の事例より～

1 Why? なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

- **地域における関係性の変化への貢献**：ゼブラ企業は、多様なステークホルダーを巻き込みながら、地域の構造変化に積極的に関与することが期待されている。立場を超えた協働を促すことで革新的な解決策が生まれる可能性がある。
- **社会課題解決と経済性の両立**：ゼブラ企業は、社会課題の解決と経済的な成長を両立させることを重視しており、地域のインパクトを意識することはゼブラ企業の理念に沿っている。

2 What? How? 地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

- **地域構造変革への挑戦**：地域が抱える構造的な課題に着目し、地域社会のあり方そのものを変革することを目指す。
- **社会性と経済性を両立したモデルの提示**：経済的な成長を追求するだけでなく、地域課題の解決にも貢献する持続可能な事業モデルを確立し、地域のステークホルダーの模範となることで地域経済の健全な発展を牽引する。
- **地域固有の価値創造**：地域固有の資源、文化、人材などを活用し、地域社会に新たな価値をもたらす事業を展開する。
- **インパクト志向のファイナンス**：インパクト投資など、社会的なインパクトを重視する新しいファイナンス手法を活用し、事業の成長とインパクトの拡大を両立させるための資金調達戦略を構築する。
- **地域共創エコシステムの構築**：地域内の多様な主体との連携を強化し、互いの資源や強みを持ち寄り、新たな価値を共創するエコシステムを構築する。

2．地域企業から見た地域の課題と、それに対応する取組

インパクトコンソーシアム

⑷ まとめ

課題

① 資金調達の課題

- ■ 従来の金融機関はインパクト創出や財務リターン実現に時間がかかる事業への資金提供に消極的なことが少なくない。
- ■ ユニコーンやIPOを目指さず急成長を志向しない企業への資金提供は、リターンへの懸念からハードルが高い。

② 人材獲得の課題

- ■ 慢性的な人手不足。特に若者・女性の採用が困難。
- ■ 起業家や新しいチャレンジをする人材も都市部に集結。
- ■ 地域では人材の流動性が低く、特に専門人材の確保が難しい。

③ 連携の課題

- ■ スタートアップがスケールできるエコシステムが地域に不足。
- ■ レガシー企業がスタートアップにアプローチする機会が少ない 。
- ■ 地域内の多様な主体との連携が不足。

対応

- 自社の目指す成長速度・規模感の認識が資金提供者側の期待と相違しないよう対話し、見極める。
- 補助金や寄付金、クラウドファンディングなどを含め、**成長段階に応じた柔軟な資金の確保手法**を考える。
- 地域金融機関や投資家との情報交換を通じて、事業への理解を促し、**インパクトの可視化など資金提供の判断材料になり得る情報**を提供する。

- 企業の存在意義や**インパクトの可視化**による若い世代への**魅力発信**。
- 従業員のスキルアップやキャリア形成支援、評価制度見直し、柔軟な働き方の導入など、自社の働く魅力を高める。

- 地方スタートアップ、ローカルゼブラ等への**行政の支援施策**が充実しつつあることから**積極的に活用**する。
- 業界団体や商工会議所などを通じて、**企業間の交流会・勉強会**の開催や、政策提言を行う。
- 地域住民との交流を深め、**顔の見える関係**を築く。**事業の透明性**を高め、地域住民に分かりやすく情報発信を行う。

3． 地域の資金の出し手から見た課題と、それに対応する取組

インパクト
コンソーシアム

(1) 問いに対する気付き・視座　～地域金融機関の事例より～

1 Why? なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

- **地域経済の持続可能性との不可分性：**地域金融機関にとって地域経済の健全性と持続可能性は自らの経営基盤と密接不可分であり、地域の人口減少、少子高齢化、後継者不在等の社会課題は、自行の将来に直結する
- **様々な地域社会課題への対応：**従来型の融資業務だけでは、こうした社会課題に十分に対応できないため、投資や、アドバイザリー・コンサルティング、更には地域人材の育成支援等、多様なサービスを総合的に展開し、地域社会へのインパクトを持続的に創出することが必要

2 What? How? 地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

- **多様なファイナンス手法の活用：**地域課題を切り口にポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)、出資等、多様な資金提供手段に取り組むことで、より地域企業のインパクト創出を促進することができる
- **地域外プレイヤーとの連携：**地域内では十分な知見や経験がない場合は、地域外のVCやファンド等と連携（個別案件での連携のみならず、共同ファンド等を組成することも一案）
- **人材育成：**VCなど他の金融機関との人材交流を通した育成の仕組み構築
- **エコシステムの形成**：地域金融機関が信用力含むリソースを活用し、自治体や大学等との連携深化により地域のハブとして機能する

3． 地域の資金の出し手から見た課題と、それに対応する取組

インパクトコンソーシアム

⑵ 問いに対する気付き・視座 ～地域VC・ファンド等の事例より～

1 Why? なぜ地域でインパクトを意識することが必要なのか

- **インパクト志向の起業家が生まれる風土の醸成：**持続可能な地域社会を形成するためには、社会課題を解決し得る起業家精神を持つ人材が継続的に生まれる土壌の構築が必要
- **社会課題の複雑性：**社会課題は複雑であるため「点」でなく「線」や「面」の視点で構造的にとらえて、インパクトを切り口に、事業者、支援者、資金提供者が連携を強化することが重要

2 What? How? 地域で社会・環境的課題解決を事業成長・経営改革の機会とするには、自ら「何を（What）」、「どのように（How）」すればよいか

- **地域企業や地域住民が出資・寄付するファンドの組成：**地域企業や地域住民が出資・寄付によりファンドを組成しインパクト投資を行い、そのリターンで次世代の起業家を育成するといった好循環を作り出す
- **VC・アクセラレーターの設立・招致：**日本は、全国すべての地域に大学が存在するなど、地域からベンチャーが生まれる素地に恵まれており、地域発ベンチャーには大きなポテンシャルがある。そのポテンシャルを発揮するためには、現場で地域発のベンチャーに寄り添い、企業価値向上に向けた対話（壁打ち）を密に出来る地域VCやアクセラレーターの存在が重要
- **人材育成：**中長期的な目線で地域社会を支える次世代の人材（起業家精神を持つ若者）を発掘・育成すべく、人材育成プログラム等を整備
- **エコシステムの形成・深化：**地域企業、起業家、自治体、地域住民や大学生等が実際に集う場（ワークショップやカンファレンス・セミナー等）を作って、新たな交流を促進

3． 地域の資金の出し手から見た課題と、それに対応する取組

インパクト
コンソーシアム

⑶ まとめ

課題

①従来型の融資業務の限界

- ■ 従来型の融資業務だけでは、複雑化する地域の社会課題に対応できない
- ■ 地域の老舗企業が抱える経営課題に対しては、従来型の融資業務に留まらない支援が必要

②人材育成の課題

- ■ インパクト志向でエクイティ活用を含む多様なソリューション提供を実務レベルで検討できる金融機関人材が不足

③エコシステム形成面の課題

- ■ 地域住民が地域課題を自分達で解決していこうとする意識・仕組みが不足
- ■ 地域金融機関においてインパクトに着目するインセンティブが十分に形成されていない

対応

- **多様な資金提供者の協働・多様なファイナンス手法の活用**
- 投資やアドバイザリー・コンサルティング、更には地域人材の育成支援等、**地域金融機関が展開するサービスを拡充**

- PIF等のファイナンス手法の活用促進により、**インパクト評価能力を向上**
- **地域外のVCやファンドに銀行員を出向**させ、投資業務等を担える人材を育成
- **地域外プレイヤー**と個別案件や共同ファンド組成等でで連携し、**ノウハウを吸収**
- 人材育成プログラムの整備

- 地域企業、起業家、自治体、地域住民等が実際に集う場を作って、新たな交流を促進
- **地域企業や地域住民が出資・寄付**するファンドを組成し、地域課題を解決
- 地域金融機関のベンチャー支援における、**大学・自治体等との連携深化**

４． 分科会から得られた示唆 ～地域企業による社会・環境課題解決促進のために

インパクト
コンソーシアム

■ **地域における課題とは何か**

✓ 人口減少と地域経済の衰退を背景にして「地域が地域であり続ける」こと自体が困難になっていることが分科会の冒頭で示された。**地域における最大の課題は「地域が存続できないかもしれないこと」**であり、インパクトビジネスという新しい取組の創出以前の、「地域で商売を続けていく、生活を続けていくにはどうしたらよいのか」、という地域の皆さんが既に直面している危機感を帯びた問いがこの分科会で着目すべき課題の一つではないだろうか。

■ **多様な価値の再評価**

✓ 高度経済成長期以降の価値観の中で、経済的な価値に直結しない自然資本などの「減価されてきた価値の取戻し」が必要なのではないか、という指摘があった。**地域インパクトを考えるにあたっては地域が有してきた自然資本、社会関係資本、文化資本といった多様な価値の再評価・再発見が必要**と考えられる。

✓ **多様な価値は短期的・直接的に経済価値に転換が難しい**ことから資金調達の困難さについても多く言及された。時間軸、財務リターンのレベルの両面において**多様かつ柔軟な資金調達手法の開発**が求められる。また、社会・環境課題の解決に向けた業態変革に踏み出そうとしている企業を支援するよう**金融機関の行動変容も期待される。**

■ **地域エコシステム**

✓ 分科会でのケーススタディにおいて、地元の方々の顔の見える関係性の中で「お前だったらとにかくやってみろ」と言ってくれるような**関係性を繋いでくれるような機能が必要**、という指摘が聞かれた。地域だからこその地元密着のネットワークやネットワークどうしを繋ぐ**触媒機能（カタリスト）の存在がより重要**となってくるのではないか。

✓ 資金調達の面でも政府による補助金、地元住民によるクラウドファンディング、金融機関による融資、地元オーナー企業からの出資、地域ファンドからの出資、といったように、企業の**成長段階に合わせて多様な資金提供者が協働**して、彼らの成長を支えていける仕組みや地域の連携があることが望ましい。

４． 分科会から得られた示唆 ～地域企業による社会・環境課題解決促進のために

インパクト
コンソーシアム

■ **地場の中小企業の可能性**

- ✓ 社会・環境課題の解決というと、ベンチャー企業による新規創業を連想することが一般的かもしれないが、分科会での議論を通じて**地場の老舗企業や中核企業のポテンシャル**が確認された。建設業、アパレル産業、製造業といった従来、社会・環境課題解決ビジネスとは思われないような一般的な産業分野でも、次世代人材育成、女性の活躍、ひとり親支援などそれぞれの強みを活かして地域インパクトを生み出す事例が多く確認された。
- ✓ 上記企業は**地域の100年後を見据え、自社を超えて地域全体の持続可能性を考える（考えざるを得ない）ため、時間軸・空間軸が広いこと**が分かった。地域でビジネスを行うあらゆる企業がインパクト創出の可能性を秘めていると言えるのではないか。

■ **地域金融機関の果たすべき役割**

- ✓ 地域金融機関にとって、地域経済の健全性・持続可能性は、自らの経営基盤と切っても切り離せない関係にある。人口減少、少子高齢化、事業承継難といった**地域の構造的課題は、地域金融機関の存立条件に直結**しており、**従来型の融資モデルだけでは対応しきれない局面**が増している。
- ✓ こうした中、地域金融機関には、単なる資金提供者にとどまらない「**価値共創の担い手**」としての役割が期待されている。具体的には、(1) **投融資の柔軟な組み合わせ**による地域企業の再生支援、(2) アドバイザリーやコンサルティング、経営人材の紹介といった**非資金的支援**、(3) 地域発ベンチャーの発掘・育成を含む**エコシステム形成への参画**などである。
- ✓ 今後は、地域金融機関が、**多様なステークホルダーとの連携のハブ**となると同時に、インパクトの可視化や投融資評価に関する知見を蓄積・内製化していくことが求められる。その結果として、地域の企業・大学・行政を巻き込む形で、**地域経済の活性化と社会課題解決の好循環を実現する核**となることが期待されている。

５．おわりに　～事業トラック　深尾座長メッセージ～

インパクト
コンソーシアム

地域社会にとって「インパクトとは何か」という問いを抱えながら、様々な知見を皆さんと共有した１年でした。私は常々、地域社会の置かれている状況や背景によって同じ行為や事象でもインパクトの表出の仕方、もしくは捉え方に差が出てくると考えていました。地域社会で事業を行っている方は、インパクト創出に無自覚で、インパクトファイナンスとは自分たちは無縁だと思っている事業者の方が多いと思います。わかりやすいインパクトに隠れ、量的にもグローバルで語られるインパクトと比して相対的に低く捉えられ、今までインパクトという視点で捉えられてこなかった事業がまだまだ地域社会には眠っている。そういった意味で地域社会のおけるインパクトとは何かを改めて考えることに大きな意味があると考え、この分科会を運営してきました。

今回、分科会において話題提供を頂いた地域で踏ん張りながら事業を行っている皆さまの取り組みは、地域社会にとってインパクトとは何かを考える上で沢山の示唆を与えてくださいました。改めて事例を紹介頂いた皆さま、フィールドワークの受け入れに快く応じてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。地域金融機関の皆さまとの議論も有効でした。地域金融機関が果たす役割や持つべき視座が共有できたような気がします。経営環境が厳しくなる中、ある意味で生き残りの一つの方策として、そして何より地域社会の持続性があってこその地域金融機関ですので、これからも地域金融機関の皆さんと知見の共有やチャレンジを応援できる環境は持ち続けていきたいと思います。

「地域が地域であり続けるために」ーこれは私が地域の皆さんと一緒に物事を考えるときによく使う言葉です。構造の変化などによって私たちの暮らしが成り立ちにくくなってきています。決していい事業環境でない中でも、自分たちの強みや関係性を活かしながら、自分たちのコミュニティのために奮闘する事業者の生み出している「インパクト」はとても重要なものだと思います。そういった事業活動を支えていくインパクトファイナンスとはどういうものなのか。短い時間軸でなく、それらの受益者でもある地域で生活や消費をおこなう市民も参加できる、オーナーシップをもったファイナンスの仕組みも重要であると改めて感じました。この分科会の議論が少しでも地域社会におけるエコシステム形成に寄与していくように、これからも向き合っていきたいと思います。

インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会 事業トラック 座長
深尾 昌峰

5．おわりに　～金融トラック　宜保座長メッセージ～

インパクト
コンソーシアム

今年度は「資金の循環により地域のインパクトを創出する」という視座を出発点とし、地域金融機関、大学、自治体、VC、事業者の皆さまと共に、政策的視点と現場で培われた実践知を交差させながら、各地の先進的な取組みを共有・検討し、実効性の高い地域金融のあり方を探ってまいりました。この取り組みは、Forbes JAPAN（2025年3月号）にも「地域×金融×インパクトから見る日本のインパクトエコノミー推進の萌芽」として紹介され、その注目度の高さを物語っています。

第3回・第4回分科会および東北フィールドワークでは、地域課題に真正面から取り組む実践が紹介されました。資金に加え、「人的資本」「信頼」「知恵」が循環する兆しも随所に見られました。

「目の前の課題を、ビジネスや経済の力で解決すること」――この実践こそが、インパクトファイナンスの本質に通じ、インパクト・エコノミーを形づくる中核的なアプローチの一つといえるでしょう。課題の存在はすなわち需要の存在を意味し、そこに顧客が生まれ、経済が成立する。すなわち地域におけるインパクトとは、「地域社会の質的豊かさの向上」にほかなりません。

とりわけ本年度は、「インパクト」と「イノベーション」の掛け算による展開が、①地域内の課題解決を主軸とするモデルと、②域外・グローバル市場への展開を志向するモデルの双方として明確に可視化されました。それを支えるのは、資金の担い手である地域金融機関、事業の担い手、知の蓄積を有する大学・研究機関、そしてそれらを支援・接続する自治体や中間支援機関の存在です。こうした主体が交差する接点にこそ、地域発の新たな産業や価値の芽が生まれつつあります。

このような認識を踏まえれば、先進的かつ意志ある人材の取り組みを顕彰し、その価値を広く可視化・波及させる仕組みとして、「地域インパクト金融イノベーター」表彰のような制度を設けることも、有意義な選択肢となり得るでしょう。

インパクトは画一的な定義に収まらず、地域の特性に応じた柔軟な実践の集積であり、まさにモザイク状の共創の風景です。

地域×資金提供者が長年培ってこられた課題意識と実践は、インパクト・エコノミーを支える確かな推進力であることが、あらためて明らかになった一年でもありました。

インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会 金融トラック 座長
宜保 友理子

5．おわりに　～副座長メッセージ～

インパクト
コンソーシアム

工藤副座長（事業トラック）

「インパクトを創出する事業」、というと今まで世の中に存在しなかった新たな価値を生み出す事業をイメージされることが多いかもしれませんが、地域におけるインパクトというのはより広いものであるということが分科会を通じて改めて理解できたように思います。

地域経済全体が地盤沈下する中で、「普通の生活を支える普通の商売」を継続することすら困難になっている現状を踏まえると、こういったビジネスを維持し続けている地方の中小零細企業が地域社会にもたらすインパクトはとても大きい。そして、こういった企業がイノベーションと無縁かというとそうではなく、衰退する市場の中でビジネスを維持していくということは大きな自己変容を伴うことでもあると多くの経営者の話から気づかされました。

また、20～30代の若者、40代で3代目～4代目のアトツギ、といった若い方々が、自社の足元の成長に留まらず地域全体の未来に向かって様々な活動に従事されている姿にも胸を打たれました。自社だけではなく、自社がその一部である地域全体をなんとかしていく覚悟を持ちながら、それでも悲壮感よりは前向きに、楽しみながら取り組んでいる姿に大きな希望を見出しています。こういった企業が全国各地で健やかに力を発揮できるエコシステム作りの一旦を今後も当分科会で担うことができればと願っております。

金谷副座長（金融トラック）

4回の分科会での多様な事例紹介やフィールドワークを通じて、日本全国で多くの方々が工夫を施しながら地域課題の解決に取り組んでいられるのだということを改めて理解しました。「インパクト」という言葉を明確に意識して取り組んでいる方も、そうでない方もいらっしゃいましたが、「自分達の地域を何とかしたい、より良くしたい」という情熱から取り組まれていることは皆様共通しており、心からの敬意を感じました。

そうはいっても、人口減少・少子高齢化は日本全国で急速に進行していますし、地域課題の解決が年々難しくなってきていることは明らかです。だからこそ、この分科会を通じて、各地域のベストプラクティスが少しでも全国に広がれば良いなと心から感じました。取組の内容や手法（What/How）も勿論ですが、その背景にあるモチベーション（Why）についても皆様で共有すべき大切な要素だと改めて感じました。

最後に、登壇者の方々や、フィールドワークを受け入れてくれた丹後・会津若松・仙台の方々に心から御礼申し上げたいと思います。同時に、金融トラックを牽引して頂いた宜保座長や、事務局の金融庁の皆様にも感謝申し上げます。

5．おわりに　～ディスカッションメンバーからの一言～

インパクト
コンソーシアム

森永　康裕（北九州市）

地域・実践分科会における様々なステークホルダーの皆様との議論を通じて、大変勉強させていただき、多くの気づきをいただきました。

地域におけるインパクト創出に向けては、まだまだ多くの課題があるとは思いますが、各地域でインパクト創出に向け、ご奮闘されている方々のお話を聞いて、北九州市ももっと頑張らねばと意を強くいたしました。

今後とも、どうぞ、よろしくお願いいたします。

金井　司（三井住友信託銀行株式会社）

地域・実践分科会は、事業者と金融機関が同じ目線で参画し、対等に議論を交わせる貴重な場です。私自身もインパクト志向金融宣言・地域金融分科会の立場からプレゼンを行い、地域金融機関が融資を通じて積極的にインパクトファイナンスに取り組んでいることやVCとの協働が生まれていること、現在の課題と方向性について広く共有する機会を頂きました。

フィールドワークの夜、杯を交わしながら皆さんと熱くインパクトを語り合ったことも心に残る体験でした。

河合　将樹（株式会社 UNERI）

今回は、インパクトコンソーシアムの地域・実践分科会でご一緒させて頂きありがとうございました。東海エリアの実践事例をお届けすることで、全国各地の皆様に伝わる機会となったのであれば幸いです。

この取り組みを通して、地域に眠るインパクト志向な事業者の仲間を発掘することが重要と再認識できました。この波及効果を最大化できる様、引き続き創意工夫いたします。

小崎　亜依子（一般財団法人 日本民間公益活動連携機構）

地域に根ざした金融機関や投資家、中間支援組織の皆さまと共に、社会課題解決を重視した新たな挑戦が広がることを期待しています。

微力ながらJANPIAも、出資や助成を通じて地域の未来を応援してまいります。

インパクト
コンソーシアム

インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会

2024事務年度　報告書

Appendix①：地域における取組事例集

Appendix①：地域における取組事例集　～目次～

インパクト
コンソーシアム

第１回分科会（2024年７月30日開催）

事例：
①**amu株式会社**　～廃漁具を再利用し、海洋ごみ問題・漁師負担軽減・新たな価値提供に対応～
②**株式会社komham**　～生ごみ分解技術を活用し、地域内のごみ収集コストを低減～
③**株式会社電脳交通**　～導入負担の少ない配車システム等を提供し、地域交通の課題に取り組む～

第２回分科会（2024年10月17日開催）

事例：
①**千年建設株式会社**　～低価格・好条件の空室を提供し、住まい困窮者支援と収益性を両立～
②**株式会社CNC**　～コミュニティナースを通じて、地域の力で健康・福祉課題解決の道を探る～
③**株式会社島田木材**　～地域の自然資源を活用し、林とともに持続・発展する地域文化を醸成～

第３回分科会（2024年11月22日開催）

事例：
①**株式会社肥後銀行**　～多面的な支援アプローチで、企業価値と地域価値の向上を実現～
②**株式会社うむさんラボ**　～起業家精神を持つ人材を育成し、地域のスタートアップエコシステムを形成～

第４回分科会（2025年２月27日開催）

事例：
①**UntroD Capital Japan株式会社/池田泉州キャピタル株式会社**　～人材交流が切り拓く、地域金融の新たな役割～
②**株式会社QPS研究所/ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社**　～九州発、持続可能な宇宙産業の構築を目指して～
③**インパクト志向金融宣言 地域金融分科会**　～インパクト志向の金融エコシステム構築～
④**北九州市**　～課題解決先進都市への歩み～

フィールドワーク　～丹後編～　（2024年12月5日・6日開催）

～会津若松・仙台編～　（2025年3月13日・14日開催）

インパクトコンソーシアム

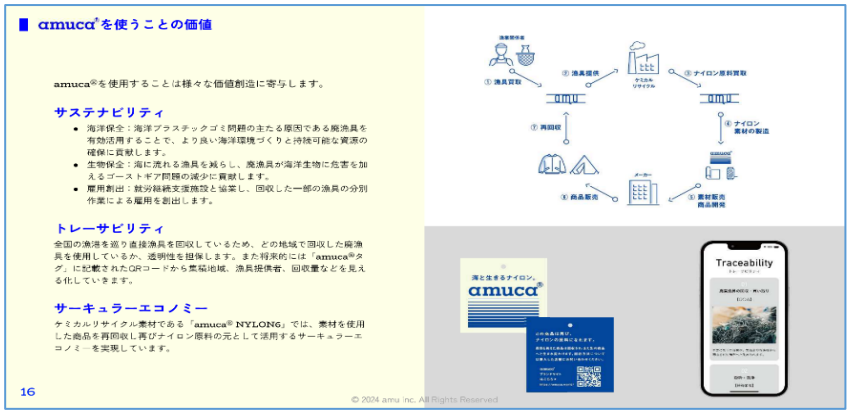
第１回分科会

事例①：amu株式会社

～廃漁具を再利用し、海洋ごみ問題・漁師負担軽減・新たな価値提供に対応～

＜取組の概要＞

- 宮城県気仙沼市を拠点に、漁網等の廃漁具の回収・加工・再利用を行っている当社は、**廃漁具が高品質なナイロンという「未来の資源」であることに加え、漁具の処分費用が地元漁師を経済的に圧迫していることに着目して、廃漁具を回収し、新たな素材や製品として生まれ変わらせるビジネスを展開**している。
- 廃漁具に経済的価値を見出して利用することで、**様々な事情から投棄されてきた漁具による海洋ごみ問題**への対策になるという社会性と、再生プラスチックの市場性を両立。
- 回収した漁具は、素材として販売するだけでなく、**商品開発や販売支援も行い、漁具を利用していた漁師のストーリーと共に発信**している。



得られた視座

- ■ 意識せず課題解決に向き合う地域企業は多いが、インパクトについて意識することで、可視化・発信が容易になる。
- ■ 地方ではスタートアップへの理解がまだ根付いていない面もあり、資金調達だけでなく、人材獲得が大きな課題となっている。

第１回分科会

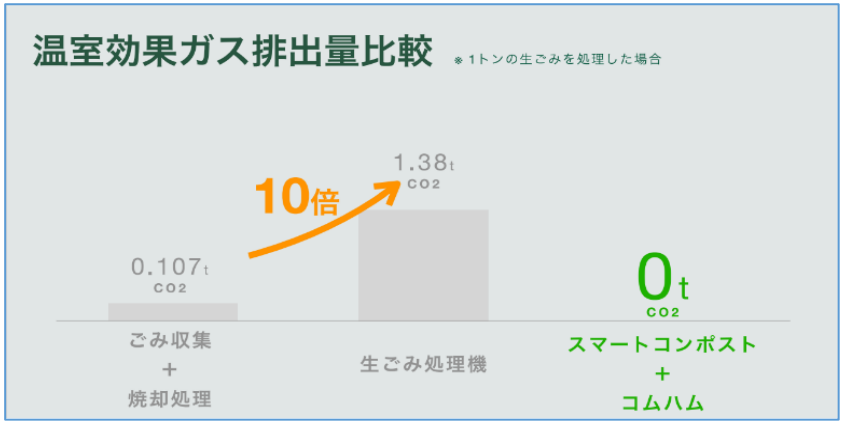
事例②：株式会社komham

～生ごみ分解技術を活用し、地域内のごみ収集コストを低減～

＜取組の概要＞

- 北海道札幌発のスタートアップである当社は、微生物を用いた有機物分解処理技術を開発し、ソーラー駆動型のスマートコンポストを販売。代表の父親が保有していた技術を継承し、新たに当社を創業。
- **独自の生ごみ等を高速分解する技術**と太陽光発電を掛け合わせた自動ごみ処理機として、**温室効果ガス削減**という環境課題への対応だけでなく、自律駆動することから**離島や山間部等におけるごみ収集コストの低減**にも寄与することで、多くの自治体、企業に採用されている。
- **地方発スタートアップ**として、自治体等からの手厚いサポートや大学からの出資等も活用し、社会的インパクトを重視した事業を展開している。

ソーラー駆動型の自動生ごみ処理機です



得られた視座

- ■ 脱炭素化とごみ収集問題への対応という多面的な効果は、様々な地域課題の解決に資する可能性がある。
- ■ 地域では、スタートアップや女性の起業等に対する理解は二極化している面も見られ、地元関係者とのコミュニケーションや人材採用等には地道な努力が求められる。

インパクトコンソーシアム

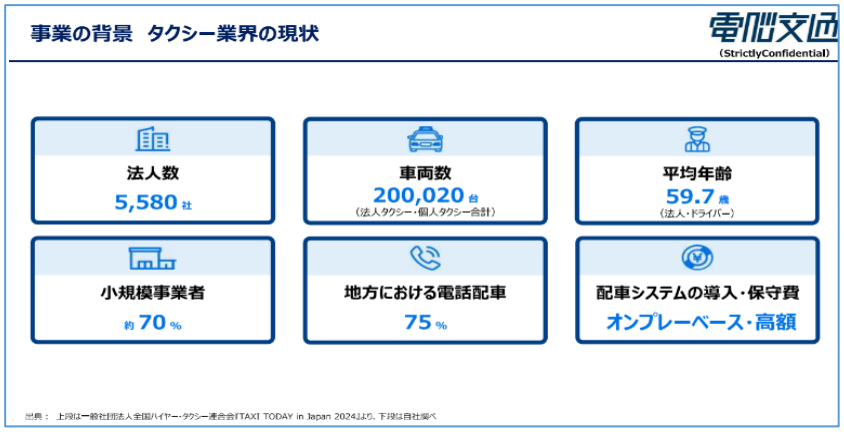
第１回分科会

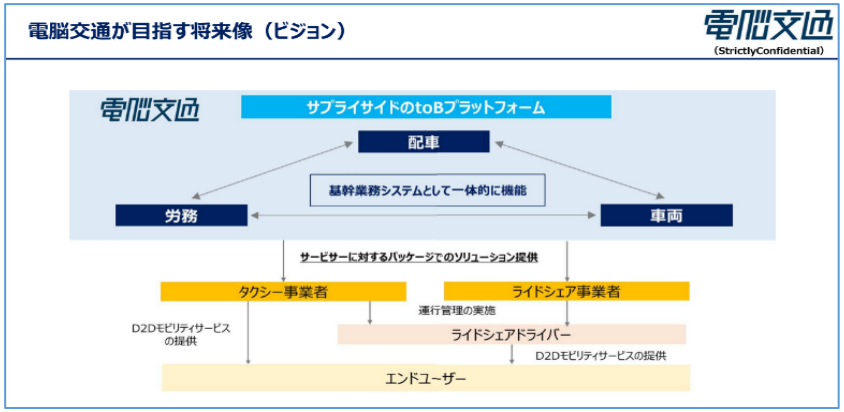
事例③：株式会社電脳交通

～導入負担の少ない配車システム等を提供し、地域交通の課題に取り組む～

＜取組の概要＞

- 徳島県徳島市を拠点に、**地域交通の課題解決**をミッションに掲げる当社は、**小規模なタクシー会社でも導入負担の少ないクラウド型配車システム**を提供。全国47都道府県で導入され、小規模事業者の経営効率化、**タクシー業界のデジタル化**に寄与。
- 配車アプリ等の新技術により、技術連携コスト・営業コストといった課題への対応が求められているが、これらの**コスト削減に必要なソリューションをパッケージ化して提供**。
- また、地域内での乗り合いタクシーや被災地で交通網が整う前のデマンド交通など、**地域の交通の穴を埋めるようなサービスを展開**し、地域の交通インフラを担う。
- **投資家の伴走支援を受けロジックモデルを作成**する中で、自社の創出するインパクトを明確に捉え、経済性と両立した事業展開を行っている。





得られた視座

- ■ 資金や情報は、地方でも人脈や周囲の支援を活用することで必要なものを調達できるが、人材の面は、リモートワークが普及しても流動性は依然低く、採用面では苦労が多い。
- ■ 地域の小規模タクシー会社の経営効率化・集客力向上を図り、経営の持続可能性の向上につなげることでひいては地域の交通インフラの維持という社会課題に対応するという点において、事業性の向上による社会性の実現を実践。

インパクトコンソーシアム

第２回分科会

事例①：千年建設株式会社

～低価格・好条件の空室を提供し、住まい困窮者支援と収益性を両立～

＜取組の概要＞

- 愛知県名古屋市で建設・不動産業を営む当社は、コロナ禍で家を失った**シングルマザーの窮状**を見て、新たに、**慈善ではなくビジネスとして「生活困窮者に低価格で住まいを貸す」事業**を立ち上げ。**立地・設備の良好な住宅を周辺相場よりも安い家賃**で母子家庭に貸し出すとともに、**母子に伴走するNPO支援の提供**を開始。
- 物件の**空室率が低下**して稼働率が向上するとともに、**家賃回収率も100%**確保され、**総収益が増加**。
- 地域課題に取り組んだ結果、**地元の信頼を得てブランド価値が高まり、社員数・売上ともに増加し、人材採用も容易に**。さらに、**私募でのインパクトボンドによる低利・長期での資金調達が可能**に。

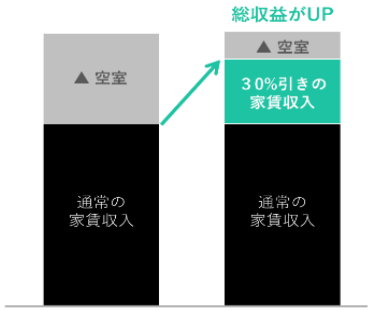
家を借りられない
シングルマザーに
家を貸す

LivEQuality

所有物件の30%を
30%割り引いた
家賃にしても

稼働率 20%UP

総収益UP



LivEQuality

得られた視座

- ■ 地域においても、インパクト事業が企業ブランドや信用力の向上に繋がり、売上や採用、資金調達にも好影響があり得る。
- ■ 一定規模の魅力的なソーシャル志向の投資先に対する個人投資家のニーズは強く、インパクト投資が馴染む可能性あり。

インパクトコンソーシアム

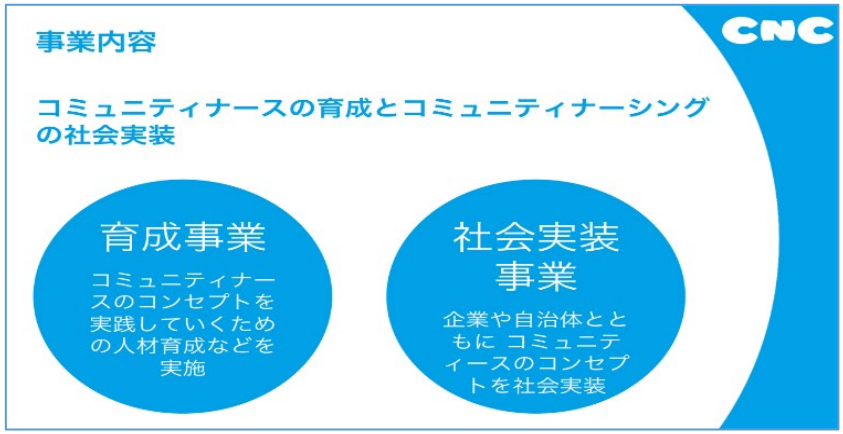
第２回分科会

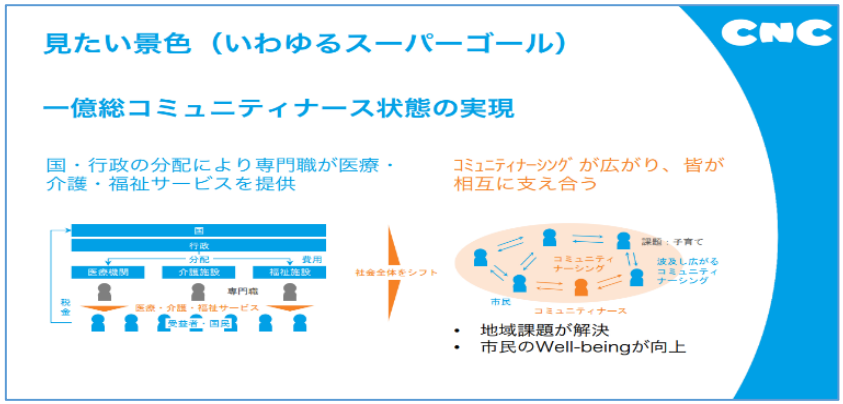
事例②：株式会社CNC

～コミュニティナースを通じて、地域の力で健康・福祉課題解決の道を探る～

＜取組の概要＞

- 島根県雲南市を本拠地にする当社は、コミュニティナースという独自のコンセプトを展開しており、コミュニティナースの育成と地域への展開を通じて、**地域住民の健康維持と社会的なつながりの強化**を図っている。
- **日常生活の中での人々の出会いを通じて、健康や福祉の問題を地域コミュニティ内で解決する**アプローチを取っている。介護予防や社会的孤立の防止に貢献するとともに、地元企業との連携を深め、地域の新しい貢献の場を創出している。
- VCからの資金調達を選ばず、**自治体や地域企業から研修会企画等を受注・連携することで資金的支援を受けるほか、ふるさと納税を通じた「ガバメント・クラウドファンディング」により資本の総量を増やす**ことに注力しており、**長期的な視点で地域社会に貢献**する事業を志向している。





得られた視座

- 「なぜやるか」を明確にすることで、「何をやるべきか」が明確になる。地域の協力者を増やしていくためにも「なぜ」は不可欠。
- 地域住民にとって、同じ地域の企業が自分たちの地域を支えるサービスを提供していると認識することは、長期的な地域貢献・協力の好循環の構築に向けて大きな意味を持つ。

インパクトコンソーシアム

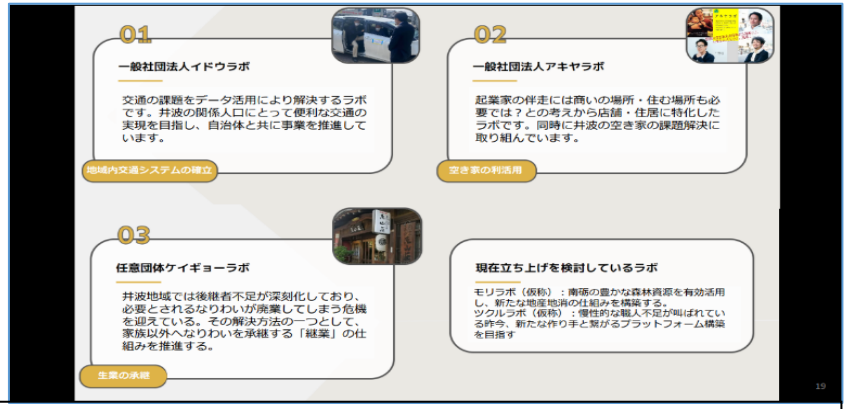
第２回分科会

事例③：株式会社島田木材

～地域の自然資源を活用し、林とともに持続・発展する地域文化を醸成～

＜取組の概要＞

- 富山県南砺市で林業を営む当社は、地域の豊かな自然資源を活用した伝統的な林業から始まり、**地域の持続可能な発展と文化の継承を目指す**問題意識から、**地域特有のウイスキー樽製造へと事業を拡大**している。
- ウイスキー樽事業は、地域の伝統や自然環境を尊重しつつ、長期的な視野に立った持続可能な林業のあり方を模索し、**地域資源の有効活用**を図っている。
- 地域の様々な課題に取り組むためにラボを設立し、人材育成や空き家対策、地域商社の設立など、**多角的なアプローチで地域の活性化に貢献**。地域に新たなプレイヤーが増え、人材不足の解消に向けた動きが見られるようになっている。



得られた視座

- ■ 地域住民が協働して産業や街づくりを総合的に進めていこうと取り組む背景には、地域の将来に対する危機感がある。危機感をそのままにせず、100 年後を見据えた住民によるまちづくりを目指す団体「ジソウラボ」を設立し、人づくりに尽力するとともに地域へ若者を呼び込むことに成功したことが、団体の発展と多様な取組への拡大につながっている。
- ■ 「ジソウラボ」に地域課題の解決など、やりがいを持って取り組む活動が広がっていることは、若者が地域での自らの居場所や役割を探していることを示しているのではないか。

インパクトコンソーシアム

第３回分科会

事例①：株式会社肥後銀行

～多面的な支援アプローチで、企業価値と地域価値の向上を実現～

＜取組の概要＞

- 熊本地震で被災した食肉製造メーカーに対し、震災ファンドの活用、債権放棄の交渉、補助金申請等の支援を行い、従来のデットファイナンスに加えて**エクイティファイナンスの重要性を認識**。
- 菓子製造メーカーの事業承継では、**創業者との密接な関係**を保ちつつ、**外部ファンドと協力し新社長の招聘とガバナンスの強化**を実施。地元企業のM&Aに成功し、地域経済への貢献と企業価値の向上を実現した。
- 大学と連携し、地域発のベンチャー企業創出を目指すスタートアップ支援を強化。**GAP資金の提供やシードファンドの設立等を通じて、企業の成長段階に応じた資金支援を提供**し、地域イノベーションの促進に貢献している。

熊本地震からの復興　事例１：A社～取組内容　HigoBank

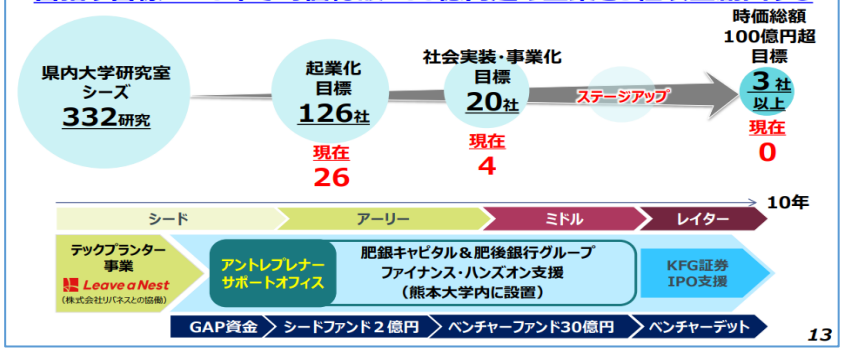
意義	✓ 地元名産品トップメーカーを、地元資本として残す ✓ 震災復興を旗印に過去の清算を図ると共に、今後も持続可能性のある企業へ抜本支援
克服すべき問題	✓ 再生に必要な過大な債務の整理（既存に熊本県高度化資金あり） ✓ 新工場建設資金の捻出 ✓ 生産中断により途絶えた売上の復活

解決策	
①震災ファンドの導入	• REVICファンド導入、REVICキャピタル・肥銀キャピタル・与信統括部チームアップ • 過剰債務整理を見据えた債権買取ファンドを利用
②債権放棄	• 当時の課題設備（屠畜頭数50頭）による過剰債務、売上不振に伴う債権放棄は必須。熊本県を含む6行の了承が必要
③工場新設補助金	• 震災後、国・県が迅速に「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」を立ち上げ • グループ補助金申請を支援。計画の妥当性を明確にし、無事認可下りる • 現業容に見合った、コンパクト且つ生産性アップを図る工場を新築
④経営管理刷新	• 債権放棄後の２次ロスを防ぐため、輸入→肥育→屠畜→加工→販売の全工程を見直し • 肥銀キャピタル・REVIC社外取締役就任による、ガバナンス徹底、予実管理徹底

5

当行グループが目指すスタートアップ支援の枠組み　HigoBank

目指す目標：10年で時価総額100億円超の企業を3社以上創出する



13

得られた視座

■ 地域の価値向上を主眼に、様々な関係者と協働し金融だけではないアプローチで地域を変えていこうとすることがインパクトにつながるのではないか。地域金融機関にとって、地域社会の発展は自らの経営と不可分であり、住民一人一人に目を向け、インパクトを具体化させることが重要。

インパクトコンソーシアム

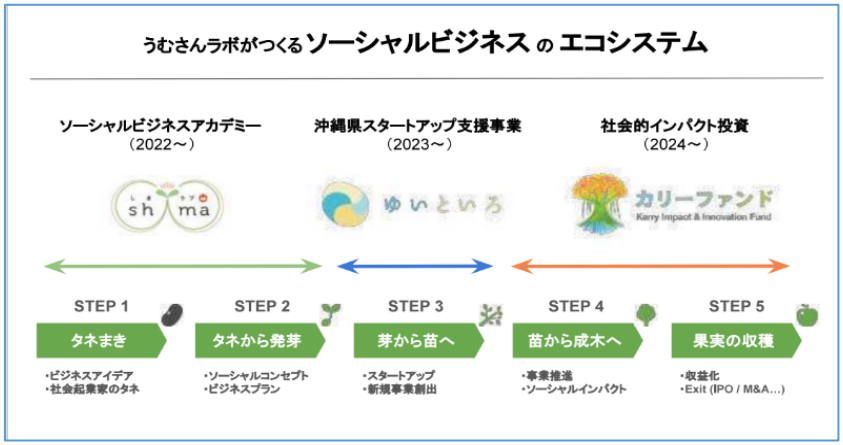
第３回分科会

事例②：株式会社うむさんラボ

～起業家精神を持つ人材を育成し、地域のスタートアップエコシステムを形成～

＜取組の概要＞

- 沖縄で人材育成と起業家精神を持つ若者の輩出を目指すプロジェクトを立ち上げ、16年間継続。ラボを設立し、**社会起業家支援やスタートアップエコシステム構築**に取り組んでいる。
- 地域の未来を担う人材が不足しているという課題から、沖縄の若者を育成し、**地域を良くするためのチェンジメーカーを輩出する必要**があると認識。
- **地域の課題を構造的に捉え**、事業連携や資金提供者間の連携を強化し、スタートアップエコシステム全体で**インパクトを共通言語にして連携して起業家を育成する文化**を作っている。



得られた視座

- ■ 地域での持続可能な発展を目指すためには、単に資金を提供するだけではなく、地域住民や起業家との連携を深め、共に学び成長するコミュニティを形成することが重要。
- ■ 中長期的な視点で、地域のエコシステムを構築していくためには、行政や支援機関等の持続的な関与と支援があることが重要。

インパクトコンソーシアム

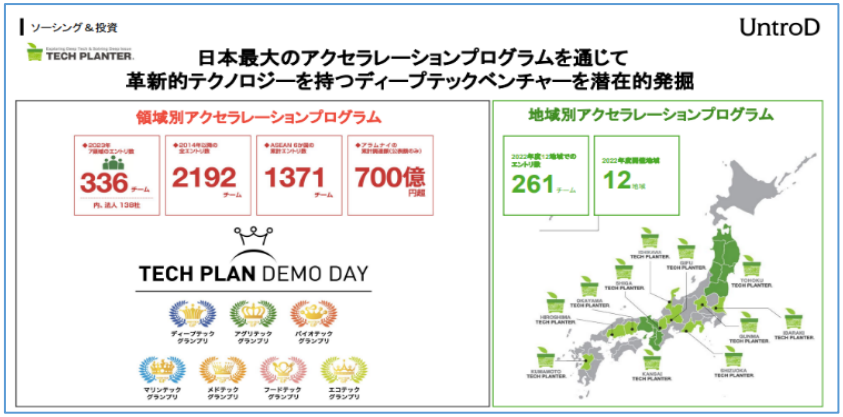
第４回分科会

事例①：UntroD Capital Japan株式会社 / 池田泉州キャピタル株式会社

～人材交流が切り拓く、地域金融の新たな役割～

＜取組の概要＞

- 地銀担当者が、外部の**ベンチャーキャピタルに出向し、スタートアップ等への出資やファンド組成等の実務を学習**。資金提供だけでなく、**成長を支える知見を獲得**し、帰任後の地域支援に活用。
- 帰任後は、地域金融機関の強みを生かした**新たな投資ファンドを組成**。地域のエコシステム形成に向け、**資金だけでなく知見とネットワークを提供する支援体制**を整えた。
- 出向を通じて得た視点をもとに、**地域での支援の仲間を増やし、ハブ機能を発揮**しながら、地域での信用力等の地銀の持つリソースも活用しつつ、継続的な支援を実施している。



得られた視座

- ■ 金融機関は、資金提供にとどまらず、地域の成長を支える仲間をつなげるハブとしての役割を担うことができる。人材交流を通じた学びが、スタートアップ支援の新たな枠組みを生む。
- ■ 外部の知見を地域に還流させることで、組織の枠を超えた支援の仕組みが生まれる。人材の交流が、資金と知見の循環を促進し、持続的なエコシステムの発展に寄与するのではないか。

インパクトコンソーシアム

第４回分科会

事例②：株式会社QPS研究所 / ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社

～九州発、持続可能な宇宙産業の構築を目指して～

＜取組の概要＞

- QPS社は、2005年に**九州に宇宙産業を根付かせる**というミッションをもって設立。地域の企業と連携し、**九州におけるものづくりの基盤を構築してきた**。
- **2014年から小型SAR衛星の自社開発に着手**し、現在8機の衛星を運用。最終的には36機体制を構築し、世界中の観測を30分以内・データ提供を10分以内に行う**リアルタイム観測網の確立**を目指す。
- ベータ・ベンチャーキャピタルとの出会いを契機に、投資ファンドや金融機関の支援を受けるなど**継続した資金調達**や、**経営・営業分野に強みをもつ人材の参画**を受けるなど、**事業拡大を加速**。上場を経て、さらなる成長戦略を推進中。

得られた視座

- ■ 地域の大学で得た学びを、仕事としてその地域で活かせる受け皿となるには、独自の魅力的かつ相応の規模感の事業が必要と考えられる。地域で連携したものづくりを存続・発展させていく観点でも、地域のエコシステムの現状維持ではなく、その輪を加速させ、継続していく努力が重要。
- ■ 事業の成長には資金はもとより、人材が不可欠。VCとの出会いを契機に、金融機関からのシンジケートローンも含め、継続した資金調達に繋がっている。自分に経験のない経営・営業といった分野には、強みをもつ人材に参画してもらうことで、次の展望が見えてくる。

インパクトコンソーシアム

第４回分科会

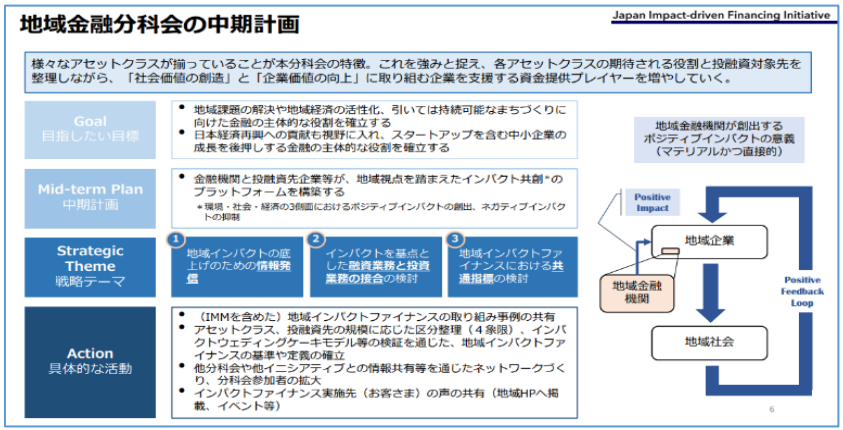
事例③：インパクト志向金融宣言 地域金融分科会

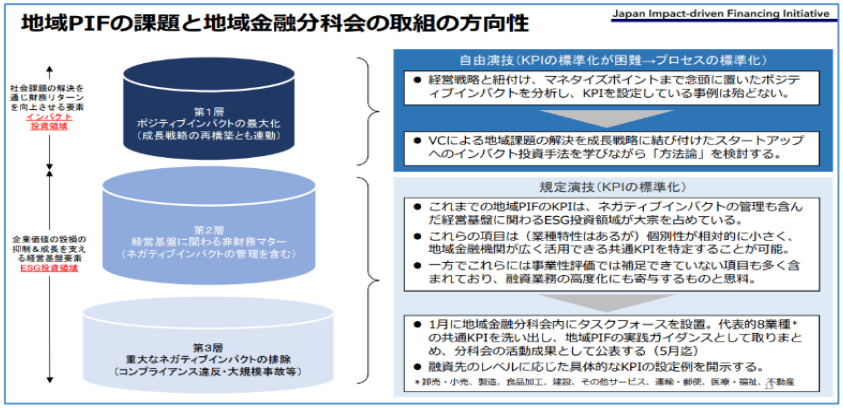
～インパクト志向の金融エコシステム構築～

＜取組の概要＞

- 地域金融機関が、インパクト志向の金融を通じ、地域課題の解決と経済活性化に主体的に関与していくことを目指す。資金の流れを変えるだけでなく、**地域社会への長期的な影響を重視した金融のあり方を模索**している。
- 戦略テーマとして、**裾野の拡大、投資と融資の接合、共通KPIの策定を推進**。中小企業向けにポジティブ・インパクト・ファイナンスが拡大している中、**プロセスの標準化を通じ、より多くの金融機関が取り組める環境整備**を進めている。(注)
- 今後は、投資と融資の連携を強化し、**成長段階に応じた支援の枠組みを整備。スタートアップから中小企業までの発展を一貫して支援**し、地域経済の持続的な成長を促す。

(注) 2025年５月30日に地域PIF実践ガイダンス(2025年度版) を公開
https://www.impact-driven-finance-initiative.com/files/





得られた視座

- KPIやプロセスの標準化は、金融機関の融資における事業性評価の向上に寄与するものと考えられる。財務データ分析のみならず、成長可能性など非財務情報を含めた包括的な視点で高度化していくことにつながるのではないか。
- VCによるスタートアップへの投資と、地域金融機関の中小企業向け融資は、その対象が特化型ビジネスとして非常に近しく、双方向の連携・接続が可能と考えられる。

インパクトコンソーシアム

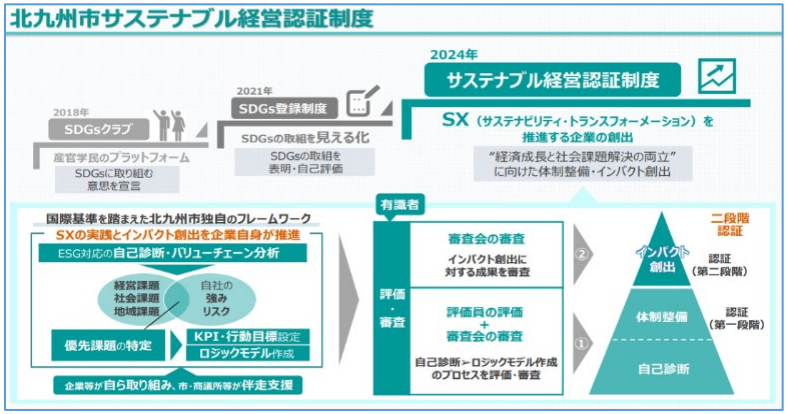
第４回分科会

事例④：北九州市

～課題解決先進都市への歩み～

＜取組の概要＞

- 北九州市は、かつての**公害克服の経験を活かし**、現在は**「課題解決先進都市」**を目指している。人口減少や産業転換といった課題を抱えつつも、**スタートアップの出現率が全国トップ**となるなど、新たな活力が生まれている。
- 市の成長戦略として**「稼げるまち」を掲げ、スタートアップ支援や産業の高付加価値化に注力**。起業支援施設の設立、補助金・ファンドの活用、行政課題解決型のマッチングプラットフォームの運営など、**多角的な支援策を展開**。
- 地域の金融機関と連携し、企業の成長と持続可能な経営を支援。**サステナブル経営認証制度を導入**し、ESG経営やインパクト評価を推進するとともに、**企業が行政・地元企業と協業する機会を創出**。



得られた視座

- ■ 行政とスタートアップ企業の協働が、地域経済の活性化を後押しする。課題解決型の企業支援が、新産業の創出につながる。
- ■ 認証制度の導入により、専門アドバイザーによる伴走支援、金融との接続、利子補給制度等、事業者にとって持続可能な経営のためのメリットも確保された。
- ■ 産学官金連携による推進体制により、環境・経済・金融が連携することで、持続可能な都市づくりが加速する。

インパクトコンソーシアム

フィールドワーク

丹後／会津若松・仙台

～丹後編～　（2024年12月5日・6日開催）　実施報告書

①京都北都信用金庫　～社会課題の解決に取り組む企業に認証を付与し、地域におけるソーシャルマインドの醸成を目指す～

②株式会社社ローカルフラッグ　～地域プロデュースにより、地域で挑戦と応援が広がるエコシステムづくりを支援～

③クスカ株式会社　～伝統的な織物産業の独自性を追求し、丹後から世界に通用するブランドを発信～

④**株式会社ウエダ本社**　～働く環境の総合商社として、人を生かした価値創出に取り組む～

～会津若松・仙台編～　（2025年3月13日・14日開催）　実施報告書

①**AiCTコンソーシアム（会津若松市、アクセンチュア株式会、TIS株式会社）**

～人口減少を食い止める、地域連携による仕事・暮らし・データ活用の改善策を実施～

②株式会社東邦銀行　～インパクトも含めたサステナブルファイナンスを経営戦略に織り込む～

③公立大学法人会津大学　～大学・企業・市町村が地域課題を検討する場「会津オープンイノベーション会議」を開催～

④国立大学法人東北大学　～市・県・企業等と連携し、まち全体をキャンパスに見立てたスタートアップ拠点整備を進める～

⑤**シスルナテクノロジーズ株式会社**　～超小型人工衛星のミッションインテグレーターとして伴走支援を行う～

⑥**ナノテラス**　～地域が連携して建設費を負担した、10億分の１mを観察できる世界最高水準の先端大型研究施設～

⑦株式会社日本政策投資銀行 東北支店　～産業振興・地域活性化、地域インフラ維持の両面から東北の地域課題に取り組む～

⑧仙台市　～スタートアップを経済成長のエンジンとすべく、支援環境の充実を行う～

⑨スパークル株式会社　～ベンチャー投資、インキュベーション、経営ソリューションに取り組む東北唯一の独立系VC～

⑩株式会社七十七銀行　～民間資金・ノウハウの活用に向けた官民対話促進を展開する「みやぎ広域PPPプラットフォーム」に参画～

実施報告・企業概要はインパクトコンソーシアムホームページにて公開中です。タイトル横のバナー、企業名をクリックしてご覧ください。

インパクト
コンソーシアム

インパクトコンソーシアム
地域・実践分科会

2024事務年度　報告書

Appendix②：地域インパクトの創出に活用できる支援施策等

Appendix②：地域インパクトの創出に活用できる支援施策等

インパクトコンソーシアム

#	施策名 [推進主体]	概要	詳細
1	**インパクトコンソーシアム** ［金融庁/経済産業省］	社会・環境的効果（インパクト）の創出を経済・社会の成長・持続可能性の向上に結び付ける好循環の実現を目的とし、投資家・金融機関、企業、自治体等の幅広い関係者が参画する官民連携の場。	https://impact-consortium.fsa.go.jp/
2	**地域生活圏** **二拠点移住支援** ［国土交通省］	二地域居住を促進することにより、人の流れを生むとともに、東京一極集中の是正、地方創生、関係人口の拡大を目指す。	https://www.mlit.go.jp/2chiiki_pf/
3	**農村漁村における社会的インパクト検討会** ［農林水産省］	農山漁村における人口減少と付随する問題を外部業種や人材を関係人口として巻き込み解決するため、農山漁村での各種取組の社会的インパクトを可視化を目的とする検討会。	https://www.maff.go.jp/j/nousin/nousangyosnn_sousei_pj/impact.html
4	**地域循環共生圏** ［環境省］	地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくるとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」の実現を目指す。	https://chiikijunkan.env.go.jp/
5	**地方創生2.0** ［新地方創生事務局］	都市も地方も、楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会を創ることを目指す。	https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_chihousousei/pdf/honbun.pdf
6	**地域課題解決事業推進（ゼブラ企業）** ［中小企業庁］	ビジネスの手法で地域課題の解決にポジティブに取り組み、社会的インパクト（事業活動や投資によって生み出される社会的・環境的変化）を生み出しながら、収益を確保する「ローカル・ゼブラ企業」の創出・育成を支援。	https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/chiiki_kigyou_kyousei/index.html
7	**J-Startup** ［経済産業省/JETRO/NEDO］	実績あるベンチャーキャピタリストや大企業の新事業担当者等の外部有識者からの推薦に基づき、潜在力のある企業を選定し、海外進出を目指すスタートアップ企業に対し、育成支援プログラムを提供。	https://www.j-startup.go.jp/index.html
8	**J-Startup地方版** ［経済産業省/JETRO/NEDO］	J-Startup同様に、海外進出を目指すスタートアップ企業に対し、育成支援プログラムを提供。地域版プログラムは、北海道、東北、新潟、中部、関西、西日本、九州、沖縄の8ブロックで構成される	https://www.j-startup.go.jp/about/
9	**世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点都市の形成** ［内閣府］	「Beyond Limits. Unlock Our Potential～世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略～」を踏まえ、有識者と内閣府、経済産業省、文部科学省による選定委員会で拠点都市を選定。拠点都市のスタートアップに対し集中支援を行い、世界と伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成を目指す。	https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/index.html
10	**ローカル10,000プロジェクト** ［総務省］	地域振興に資する民間投資を支援するため、自治体が金融機関の融資と協調して公費により助成	https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/local10000_project.html